

播隆上人略年譜

| 西暦 | 年号 | 年齢 | 事項 |
|------|-------|-----|---|
| 1786 | 天明六年 | | 越中国新川郡太田村の中村佐兵衛の次男に生まれる |
| 1804 | 文化元年 | 19歳 | 名古屋の浄土宗尋盛寺性誉上人に弟子入り。 大阪宝泉寺見仏上人の弟子となり仏岩と称す |
| 1814 | 文化十一年 | 29歳 | 江戸本所の霊山寺にて浄土宗の正式な僧となる |
| 1821 | 文政四年 | 36歳 | 飛騨高原郷岩井戸村「杓子の岩窟」で九十日間参籠修業す |
| 1823 | 文政六年 | 38歳 | 笠ヶ岳登山。「迦多賀嶽再興記」を記す |
| 1824 | 文政七年 | 39歳 | 第四回笠ヶ岳登山、道標の石仏を安置、頂上に銅仏像を安置 |
| 1825 | 文政八年 | 40歳 | 伊吹山で修業 |
| 1826 | 文政九年 | 41歳 | 小倉村の中田又重郎の案内にて第一回槍ヶ岳登山、登路を偵察 |
| 1828 | 文政十一年 | 43歳 | 第二回槍ヶ岳登山。登頂に成功。 頂上に阿弥陀仏他二体を安置。 穂高岳にも名号碑を安置。 |
| 1833 | 天保四年 | 48歳 | 第三回槍ヶ岳登山。 |
| 1834 | 天保五年 | 49歳 | 第四回槍ヶ岳登山。槍の穂先に「善の綱」をかける。 |
| 1835 | 天保六年 | 50歳 | 第五回槍ヶ岳登山。 |
| 1840 | 天保十一年 | 55歳 | 十月二十一日、美濃太田の林市左衛門方で大往生す。 |

顕頌之記

播隆上人、越中河内村、中村順信次男としてこの地に出生、仏道に志し諸国を巡錫、独修独行、文政6年(1823)飛騨迦多架嶽即ち笠ヶ岳(2,897m)を再興、難路を拓き恭しく頂上に仏像を安置、槍ヶ岳(3,180m)の天際に聳え立つを仰ぎ登拝の念湧々として止み難く信州より入山すること数次、辛苦を重ね文政11年7月20日遂に峻険の絶頂を極め仏像を奉安して感涙に咽ぶ、ウェストンの槍ヶ岳に先立つこと実に六十有三年天保二年生家念仏道場再興、播隆さらに万人槍ヶ岳禅定のため東西に志を募り藩吏農民の迫害に屈せず天保十一年八月宿願の鉄鎖山壁取付成る。同年十月二十一日美濃太田にて大往生五十九、不屈の越中魂よく未踏の峻岳を開き山岳渴仰の清志岳界を奮い起たしむ。

世の人の恐れ憚る槍の穂も やがて登らん我にはじめて 播隆

昭和58年5月8日 播隆上人顕頌碑除幕式挙行

題字 日本山岳会富山支部長 中田清兵衛

副碑々文 日本山岳会会員 廣瀬誠

工事施工 日本山岳会会員 濱田文二

日本山岳会富山支部創立35周年記念事業として挙行
以降、毎年顕頌碑前において播隆祭を実施